

平成 28 年度決算をチェック 特に努力と改善を求めた事項

歳入 273億 5,366万4千円

歳出 267億 9,725万9千円

決算特別委員会

計画的な大規模施設の改修を

『合併特例債』に関し、合併特例債の使用期限が平成32年までであるが、将来の負担を軽減するためにも、老朽化した施設の大規模な改修等を合併特例債の使用期限までに計画的に行なっていくように。

離島の産業振興へ

『再生エネルギー活用離島活性化事業』に関し、離島航路の運賃が助成の主なものだが、離島の産業振興につながる取り組みをするように。

計画的な研修を積極的に

『自主防災組織育成事業』に関し、自主防災組織の研修・訓練は、実施していることだが、要望があった地区だけではなく防災ネットワークや消防署と連携し積極的に働きかけ計画的に研修を行うように。

収支の均衡を図るよう

『本庁舎駐車場有料化整備事業』に関し、維持経費と駐車料との差し引き額は、

300万円程度である。第2駐車場は、一部を月極め駐車場として収入の確保を図っているものの、駐車スペースに余裕があるため、月極め駐車場の拡大など、さらなる収入の確保を図るための検討をするように。

地域の産業にかかわる人材を

『地域おこし協力隊導入事業』に関し、協力隊は、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域の活性化や定住・定着化を図る目的がある。協力隊が定住するためのスキルアップに対するサポートを行政も積極的に行う必要がある。

廃園後の利活用を

『へき地保育所運営事業』に関し、へき地保育所（根獅子・早福町）が昨年度末で廃園となったが、施設の利活用は地元任せでなく、地域の活性化、福祉の向上

に役立つ運用モデルを提案していくように。

利用料の周知徹底を

『田平地区斎場利用支援事業』に関し、平成30年4月から田平地区・生月地区の住民も平戸斎場を利用することとなるが、現在は地区により異なる利用料が決定次第、速やかに市民に周知徹底をするように。

結婚対策となる推進を

『農業後継者結婚対策事業』に関し、28年度は3組が結婚に結びついた。農業委員会を中心とした関係者の努力を高く評価する。今後は地域協働課の事業などとも連携し、さらに推進してもらいたい。



海の環境整備を根気強く

『地域重要資源維持・回復支援事業』に関し、磯焼けの進行など海の環境が変化

しており、資源管理型漁業の構築のために事業を活用し、水産資源の維持、回復について、根気強く取り組んでいくように。

カウント方法の統一を

『平戸藩の四季めぐり』をはじめとするイベント集客数の集計方法について、各イベントで把握の仕方が統一されていないようなので、マニュアルを作成して報告の精度向上に努めるように。

委託先を広げては

『市道維持管理事業』の影切り・除草・樹木の伐採などの業務委託に関し、地域の実状を把握しているまちづくり運営協議会などにも委託先を広げていくことも検討するように。

不安の解消を

『度島地区消防力向上事業』に関し、度島地区は離島で常備消防もない地域であり、火災や救急の対応への不安を解消できるように、緊急時の対応について地区住民に対し十分に説明しておくように。

早期に今後の事業計画を

『平成28年度平戸市電気事業特別会計決算認定』については、平成28年度は機械の大きな故障もなく、約129万円の実質収支を出すことができていたが、平成32年度には売電単価が引き下げられるため、早期に今後の事業計画を示すように。

まちづくり協議会との連携を

『地域づくりによる介護予防推進支援事業』に関し、高齢者に体操をして筋力アップしてもらおうだけでなく、ふれあいの場ともなるので、まちづくり運営協議会とも連携し、介護予防を推進するように。

また、『度島地区の介護施設』に関し、全市的に介護サービスの受給者数は増加しているものの、次第に高齢者数は減少する見込みであり、単純に介護施設を増やすことには問題がある



まとめに、財政指標等は良好な状況を維持しながらも、普通交付税の合併算定措置による減額の影響も徐々に見られてきている。また、人口減少対策についても「やらんば平戸」応援基金に依存するなど脆弱な財政構造に変わりはない。それぞれの指摘については十分検討を行なうよう、理事者に対し要望した。

9月定例会

ここに注目!

9月定例会が9月4日から28日までの25日間の日程で開催されました。今回は、平成28年度一般会計決算認定・平成29年度一般会計補正予算など提案された報告5件、承認1件、議案26件、議案議2件は、慎重な審議の結果、原案のとおり承認・可決・認定とされました。



▲全国和牛能力共進会（宮城大会）の様子

次大会に向けて取り組みを

『平戸牛の里づくり事業』に関し、9月に開催された全国和牛能力共進会に長崎県代表牛として本市から15頭が出場できたことは、これまで継続して事業に取り組んできた成果だと評価する。事業で導入した優良雌牛を今後とも活用し、地区の共進会を通じ、次回の鹿児島大会につながる取り組みを農家と継続して行うように。

教育環境の充実を

『ICT教育推進整備事業』に関し、ICTを活用した授業は、子どもの理解力を深め、興味・関心を高めているものの、学力テストの結果には、まだつなごうの推進は全国的な流れでもあるため、より良い教育環境の充実に努めるように。

人材が輝ける環境の整備を

『生涯学習推進事業』に関し、推進してきた結果として人材が育成されてきたが、この人たちが活躍する場が少ない。学んだものを発揮できる環境を整備するように。

適正な保険料となるように

『平成28年度平戸市国民健康保険特別会計決算認定』について、平成27・28年度は2億円を超える基金の取り崩しにより、保険料の増額を抑えてきた。平成30年度からの保険料は、県が示す標準保険料率を参考に、本市独自の保険料を算定することとなり、